

回覧

元気なコミュニティだより

二宮町百合が丘 2-29-6(百合 2 丁目会館) 090-5211-6891 <https://gen-comi.jp>国交省モデル **空き家対策終了****お試し移住など 5 年間継続、危機和らぐ**

ゲンコミが国土交通省の助成を得て令和元年以来取り組んできた「空き家対策モデル事業」は今年度末で終了することになった。空き家対策部会（廣上正市部会長）が手掛けてきたのは



お試し移住を中心にした町外移住者の呼び込みで、昨年度からは対象を大磯町にも広げている。民間主導のこうした取り組みは各方面から注目されてきたが、テレワークの定着などあって「空き家問題」を巡る状況が変わってきており、協議会事業としてはここでピリオドを打つことにした。次年度からは両町ともに内容を再編して実施していく。

R5 年度は二宮町、大磯町ともそれぞれ 11 月、12 月の各 2 回お試し移住を実施。二宮では 11 組、大磯では 16 組の応募者から 5 組 12 人、2 組 4 人が体験ツアーや交流イベントに参加、支援者との懇談などを行った。その中から早くも移住者が出ている。

この事業は人口減少、空き家の増加を背景に、当時の地域再生協議会が着手。当初は家主、地域住民に対する啓蒙活動に力点を置いていたが、R3 年度からは神奈川県住宅供給公社の協力を得たお試し移住中心に切り替え、二宮町に関心を持つ多くの移住希望者を呼び込んできた。この 5 年間の国交省の助成額は 1 千万円弱になる。こうした取り組みは各種メディアや国交省の HP などに取り上げられ、昨年は神奈川県内の空き家対策担当者会議などでも紹介された。



同事業を通じて何家族が移住したかの数字は把握できていないものの、取り組み自体は多くのイン



パクトをもたらした。二宮町および百合が丘など町北部の最近の状況を見ると、このところ空き家物件が供給不足気味になっており、一時のような緊迫感は遠のいた。百合が丘にある県供給公社住宅の空き家率をみると、棟数・住居数のコンパクト化が始まった 7 年度前の 50%台が最近では約 85%とほぼ満杯に近い状況。戸建て住宅もやや値上がり気味であり、従来とは違ったアプローチが必要な場面を迎えている。